

大人の発達障害 について



株式会社Avenir

もくじ

-  はじめに
-  発達障害とは
-  それぞれの発達障害について(ASD、ADHD、LD)
-  発達障害の特徴と配慮ポイント
-  発達障害の相談先
-  まとめ

はじめに

2016年4月1日改正、障害者雇用促進法施行

事業者による障害のある人への「合理的配慮の提供」が義務化

■合理的配慮とは…

障害のある人から「社会的なバリアを取り除いてほしい」という意思が示された場合に、その実施に伴う負担が過重でない範囲で、バリアを取り除くために必要かつ合理的な対応をすること

■対象となる「障害者」とは？

障害や社会の中にあるバリアによって、日常生活や社会生活に相当な制限を受けている人すべてが対象
＝障害者手帳を持っている人だけでなく、身体障害のある人、知的障害のある人、精神障害のある人（発達障害や高次脳機能障害のある人も含む）、その他心や身体のはたらきに障害がある人すべてが対象

発達障害とは



「発達」の進みかたに早いところや遅いところがあり、そのせいで苦手なことや上手くできないことが増えて、生活や仕事で困ってしまうことを言います。

発達障害＝
生まれ持った「脳機能タイプ・特性」



「しつけや育て方のせい」
「本人の怠けやわがまま」



間違いです！

発達障害とは

必要なのは…

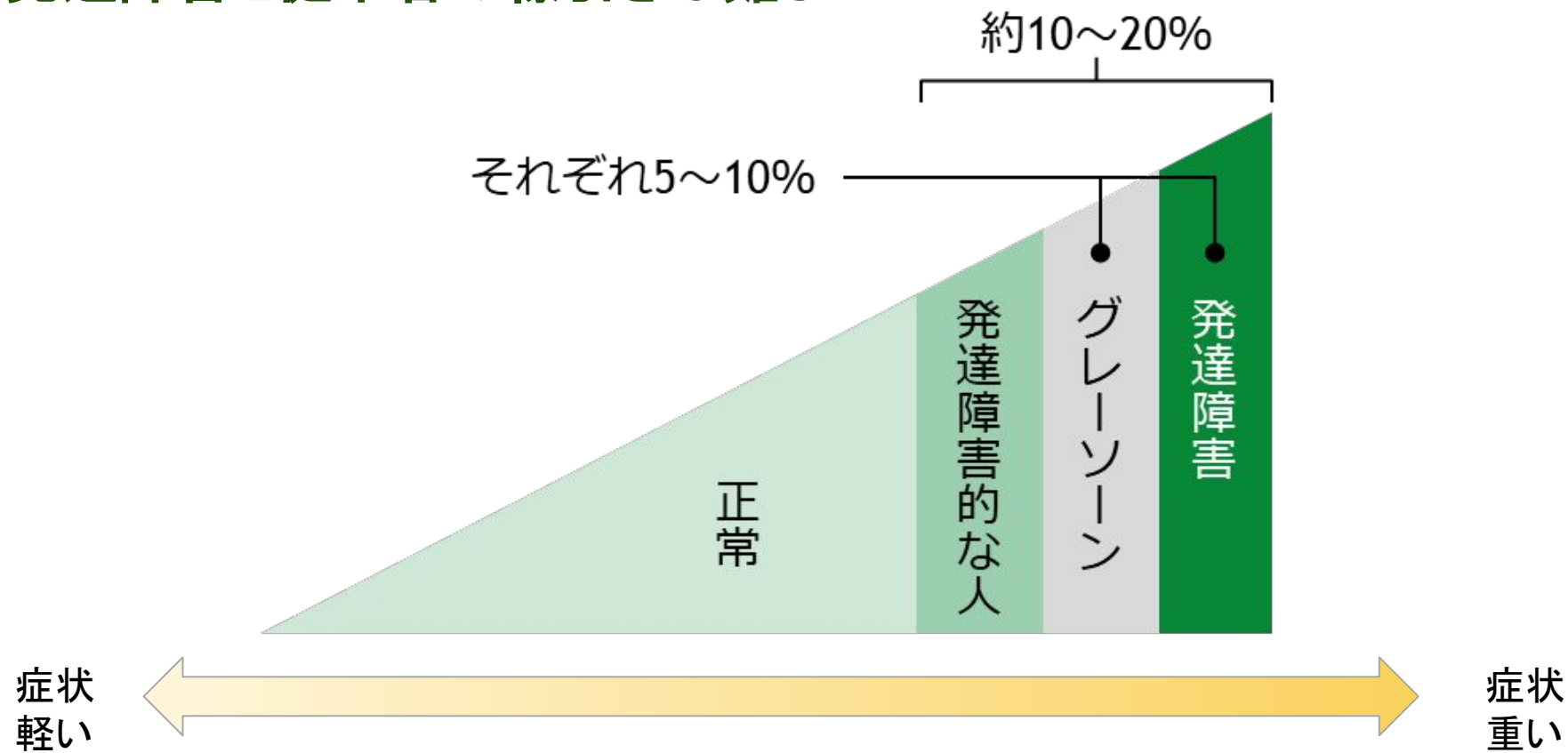
- ・環境調整
- ・適切な支援



本人の特性に合わせて調整していくことが重要です

発達障害とは

■発達障害と健常者の線引きは難しい



それぞれの発達障害について

■代表的な発達障害

ASD
(自閉スペクトラム症)

ADHD
(注意欠如・多動症)

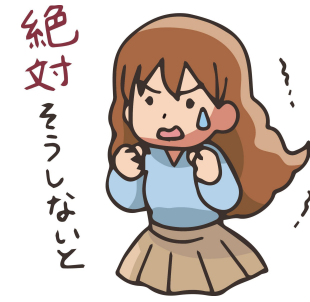
LD
(学習障害)

ASD (Autism Spectrum Disorder)



ASD＝自閉スペクトラム症であり、
自閉症やアスペルガー症候群などが含まれます。
「社会性」「コミュニケーション」「想像力」の3つにおいて
特性・特徴が目立ちます。

- ✓ 雰囲気判断することが苦手
- ✓ 関心のあることはずっと話続けてしまう
- ✓ 感覚過敏が並存することも少なくない
- ✓ こだわりが強く臨機応変な対応が難しい



ASDの接し方例



指示を急に変更しない



指示を曖昧に伝えず、肯定的、具体的、視覚的な伝え方をする

例)「〇〇をしましょう」といったシンプルな伝え方、
その人の興味関心に沿った内容や図・イラストなどを使って説明する



複数段階のある業務は、業務達成目標の段階を細かく分けて少しずつ達成を目指す「スモールステップ」とする

例) 手順を示す、モデルを見せる、体験練習をする、新しく挑戦する部分は少しずつにする



音や光に過敏な人には配慮する

例) イヤーマフを活用する、大声で説明せずホワイトボードで内容を伝える、
居場所をつい立てなどで区切る

ADHD (Attention-Deficit Hyperactivity Disorder)



「不注意」と「多動・衝動性」の
2つの特性・特徴があります。



注意し続けることができず
作業にミスを生じやすい(注意欠如)



落ち着きがない・待つことができない
(多動性・衝動性)

※注意欠如と多動性・衝動性の両方がある場合と、
どちらか一方が顕著に現れる場合があります



ADHDの接し方例



集中できる環境を整える

例) デスクに余計な物を置かない、**座席の位置**を工夫

例) 一度に**多くのこと**を頼まない



忘れ物対策

例) メールやメモ、**リマインド機能**を活用 する



手順を示す

例) 一緒に優先順位をつけてスケジュールやタスクを**見える化**して共有する



メリハリをつける

例) 課題の途中に**小休止**を入れる

LD (Learning Disabilities)



「読む」「聞く」「話す」「書く」「計算する」「推論する」の
6つの能力の1つ以上に、習得や使用の困難があります。
ただし、「視覚障害、聴覚障害、知的障害、情緒障害などの障害や、
環境的な要因が直接の原因となる場合」は学習障害には該当しません。

- ✓ 読字障害であれば「文章が読めない」
- ✓ 書字障害であれば「漢字が苦手」
- ✓ 算数障害であれば「計算が苦手」



※どの能力が困難かによって困りごとの種類は多岐にわたります

LDの接し方例



計算作業を工夫する

- ・計算作業には時間を長くとる、またはそのような業務を避ける



読み書き作業を工夫する

- ・説明する際は内容を省略せず、筋道だてて行う
- ・メモを取るよりもマニュアル・レジュメを用意する
または録音や写真を撮ることを許可する

業務は、複数人で担当するものを行い、
わからないことは聞ける環境づくりを行う

発達障害の特徴と配慮ポイント



発達障害の特性は単体ではなく複数が重なり、対応が難しいこともあります

自閉スペクトラム症 (ASD)

- ・興味のあることに
関心が集中する
- ・こだわりが強い
- ・対人関係や社会的
コミュニケーションに
困難がある

注意欠如・多動症 (ADHD)

- ・忘れ物や
失くし物が多い
- ・気が散りやすい
- ・集中できない
うっかりして同じ
間違いを繰り返す

学習障害／限局性学習症 (LD／SLD)

- ・全般的な知的発達
には遅れがない
- ・読み・書き・計算
が苦手

発達障害の特徴と配慮ポイント



叱ったり拒否的な態度を取ったり、笑ったり、ひやかしたりしない



日常的な行動の一つとして受け止め、**時間をかけて待つ**



苦手なことに無理に取り組まず、**できることで活躍する環境**を作る



得意な部分を積極的に使って情報を理解し、表現できるようにする



苦手な部分は、課題の量・質を適切に加減し、**柔軟な評価**をする

発達障害の特徴と配慮ポイント

発達障害は、「睡眠障害」「うつ病」などにつながることがあります。

- ✓ 発達障害の特性とうまく付き合うためには、**併存する病気・症状をケアする**ことも大切なポイントです
- ✓ ひとりで抱え込まず、**医療やサービスをうまく活用**しましょう



ここで紹介している病気や症状、または発達障害の二次障害は、発達障害がある方に必ず起こるという訳ではありません。



発達障害の相談先

生活や仕事についての相談

- ・ハローワーク
- ・地域就業者支援センター
- ・障がい者就業/
生活支援センター

症状についての相談

- ・医療機関の「精神科」
「心療内科」



情報収集

- ・発達障害ナビポータル

相談窓口や支援

- ・全国の発達障害支援
センター

まとめ

-

- [illegible]

- [illegible]